

# おおまち

# No.147

平成24年10月15日

# 市議会だより

発行／大町市議会  
編集／市議会だより編集委員会  
〒398-8601  
長野県大町市大町3887番地  
TEL.0261-22-1139  
市議会ホームページ  
<http://www.city.omachi.nagano.jp/ctg/C17/17.html>



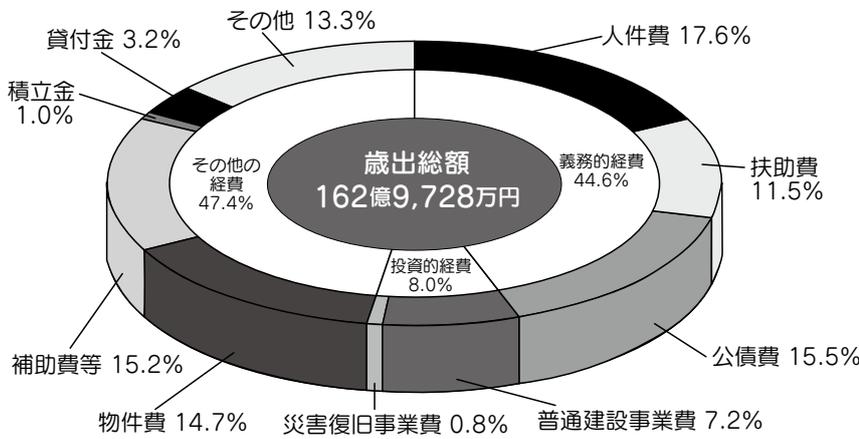
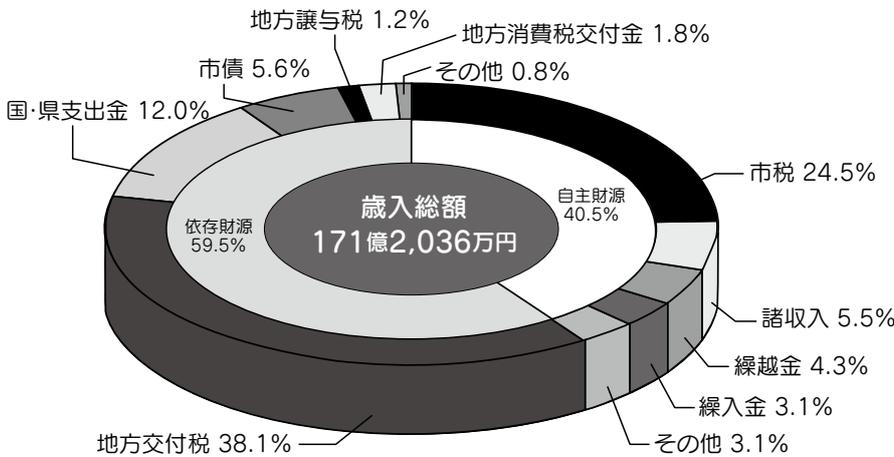
## おもな内容

8月臨時会	2
9月定例会	2
決算概要	3
市議会からの意見	3
一般質問	5
議員定数等検討委員会設置	10
委員会審査報告	11
審議結果	12
請願・陳情審査結果	12
焦点	13
防災対策特別委員会答申	13
意見交換会について	14
編集後記	14

# 平成23年度決算 全会計で決算が認定!!

一般会計決算			
	平成23年度決算額	平成22年度決算額	前年度比
歳入	171億2,036万円	194億1,612万円	▲11.8%
歳出	162億9,728万円	186億7,918万円	▲12.8%

**8月臨時会**  
8月1日、8月臨時会が開会されました。  
提案は、予算案件1件で、内容は、明日香荘の修繕費など1億2千15万円の追加予算でした。全会一致で原案は可決されました。



**9月定例会**  
平成24年9月定例会は、8月28日から9月19日までの23日間の会期で行われました。定例会では、23年度決算認定の審議が行われ、慎重審査の結果、全ての会計が認定されました。

条例案件で主なものは、信濃木崎夏期大学について設置及び管理に関する条例が制定され、新料金などでスタートすることになりました。八坂地区にある明日香荘では、新しい指定管理者として、㈱ハーヴェスタ・クリエーションズが指定されました。10月から3年6カ月の指定期間です。予算案件では、給水車を購入するために1,272万円、おおまびよんの関連グッズ（切手、ぬいぐるみ、ストラップなど）の作製費として340万円、防災施設の備品購入費1,100万円、山岳資料収集保管事業で賃金146万円など計5億175万円の追加予算が提案され、いずれも全会一致で可決されました。

**市議会を  
生中継しています**

市議会本会議の様様を、大町市ケーブルテレビと大町市ホームページで生放送しています。またケーブルテレビでは、一般質問の様様を再放送しています。ホームページでは録画をご覧いただけます。

**討論**

平成23年度一般会計決算では、認定することに賛成、反対の討論が行われました。

**反対の主な理由**

「ケーブルテレビ事業の加入率が低いなど、事業の進め方に問題がある」「北ア広域連合が進めているごみ処理施設建設の進め方に賛同できないので、関係予算の拠出に反対」などでした。

**賛成の主な理由**

「厳しい経済状況の中で、希望のもてる決算の内容であった」「実質公債費比率などを見れば、健全財政の堅持は高く評価できる」「広域連合のごみ処理場建設の手法は透明性を確保しており、評価できる」などでした。

■ 決算概要

大町市議会は、決算審査特別委員会を設置し、3つの分科会にわかれ、一般会計、5特別会計、4公営企業会計の審査をしました。歳入では、法人市民税で一部の企業収益が悪化したことや、固定資産税で企業の設備投資が鈍化したことなどにより、市税の収入額は前年比3・6%減となりました。歳出では、主な事業は有害鳥獣対策、東小耐震改修事業、西公園グラウンド照明設備改修工事などです。

市全体の借金の返済金等が、財政運営に及ぼす負担の割合を表す実質公債費比率は前年より1・8ポイントと大きく改善し16・2%となりました。公債負担適正化計画で目標としていた18%は3年前倒して達成しました。自主財源が減り、厳しい財政状況のなかで、市民要望は益々高まっています。事業の選択と集中により、市の将来像に向かって一層の努力が求められます。

市議会からの意見

■ 一般会計

第1分科会（総務又教関連）

（歳入について）

○ 税収は企業収益や景気動向に左右されるが、市の自主財源の基幹収入である税収の確保に向けて、より一層の努力と工夫に取り組まれない。

○ 実質公債費比率や将来負担比率等の財政指標が一定ラインまで回復してきたことは評価できる。引き続き健全財政の堅持に努力されたい。

○ 経常収支比率などに見られる財政の硬直化を軽減するよう、歳出の選択と集中などにより、経常経費の削減に努められたい。

○ 入湯税は、環境衛生施設や鉱泉源の保護管理施設などに充当する目的税であることを踏まえ、市の温泉事業の全体計画の中で慎重に議論されたい。

（歳出について）

○ 公共工事等入札契約監視委員会からの提言によりスタートした電子入札については、公平性、公正性などの観点からさらに普及を図られたい。

○ 定住対策の推進のため、地域との連携を深め、効果的・重点的な施策の展開を図り、移住しやすい環境整備に工夫されたい。また、結婚支援や出会いの場の拡充を図り、成果に

結び付く活動を継続されたい。

○ 山村留学事業は、受け入れ農家の高齢化などの課題はあるが、少子化対策や地域振興、さらには地域の活力源ともなる有効な事業なので、さらなる促進を図られたい。

○ 文化財を地域の財産のひとつとして捉え、市民に啓蒙するとともに、観光をはじめ各方面での有効活用を検討されたい。

○ 学校給食のあり方に関する当面の基本方針が示されたが、地域の宝である子どもたちのために、引き続き、安心安全な学校給食の実施に努められたい。

○ 大町市は、多種多様な公共施設を有し、利用者から高い評価をいただいているが、将来的な施設のあり方について、ストックマネジメントの考えに沿って、総合的に検討されたい。

○ 市民に親しまれ、魅力あふれる山岳博物館を目指し、教育普及事業の一層の充実を図るとともに、事業の成果を広くアピールされたい。

第2分科会（社会厚生関連）

○ 人間ドックについて、助成額改正により受診促進が図られているが、市民の健康増進・保持のため、より一層の受診率向上に努力されたい。

○ 生活保護について、地域の厳しい雇用情勢を反映し、保護率は依然として高いが、引き続き就労支援・自立支援策の強化に努められたい。

特別会計決算

会 計	歳入総額	歳出総額
国民健康保険	32億6,448万円	31億8,742万円
後期高齢者医療	2億8,933万円	2億8,823万円
公共下水道	10億8,821万円	10億4,433万円
農業集落排水事業	1億 263万円	9,694万円
公営簡易水道事業	1億9,853万円	1億9,775万円

公営企業会計決算

水道事業			
収益的収入	5億3,037万円	収益的支出	4億8,530万円
資本的収入	0円	資本的支出	2億6,484万円
温泉引湯事業			
収益的収入	6,738万円	収益的支出	4,457万円
資本的収入	0円	資本的支出	1,079万円
病院事業			
収益的収入	43億 702万円	収益的支出	41億9,675万円
資本的収入	6億6,155万円	資本的支出	9億1,823万円
指定訪問看護事業			
収益的収入	2,656万円	収益的支出	3,495万円
資本的収入	10万円	資本的支出	0円

○ クリーンプラントについて、小水力発電からの電力供給及びエコセーブシステム導入により大きな節電効果が認められ評価できる。引き続き経費削減策の推進に取り組みたい。

**第3分科会（産業建設関連）**

○ ポケットパークの管理運営方法について、市民との協働の観点から研究をされたい。

○ 住宅リフォーム事業は、市内に大きな経済波及効果が生まれ評価できる。補助期間終了後の対策について、多面的に検討されたい。

○ ブランド振興事業について、信州大学との共同研究をより幅広い分野で実施するよう検討されたい。

○ 観光誘客宣伝事業について、選択と集中の観点から、地域に埋もれている観光資源を掘り起こす努力をされたい。

○ 松くい虫等による被害防止対策について、効果的な実施方法を検討されたい。

○ 美麻地区の北アルプスを望む思われた里山景観について、観光資源としての活用を図られたい。

**国民健康保険特別会計**

○ 事業の健全な運営のため、疾病の予防や各種検診の受診率向上、健康づくりの推進等のさらなる施策の推進に努められたい。

○ 国保税の滞納について、実情の把握や納税相談を十分行うとともに、特に悪質な納税者に対しては資格証明書の発行を検討するなど、収納率向上のため鋭意努力されたい。

○ 国保財政の基盤強化のため、財政支援について引き続き国・県への要請行動等に取り組みられたい。

**後期高齢者医療特別会計**

特記事項なし

**公共下水道特別会計**

○ 災害時等における下水道施設及び設備について、具体的な復旧計画について検討されたい。

○ 適正な賦課徴収事務に努めるとともに、収納率の向上を図られたい。

○ 未接続世帯への訪問調査等により、水洗化率の向上を図られたい。

**農業集落排水事業特別会計**

特記事項なし

**公営簡易水道事業特別会計**

○ 改修事業実施にあたっては、有利な財源の活用について検討されたい。

○ 施設の管理体制について、より一層の充実を図られたい。

**水道事業会計**

特記事項なし

**温泉引湯事業会計**

○ 将来の施設改修に備え、十分な計画と財源の確保に努力されたい。

**病院事業会計**

○ 職員が一丸となり病院の機能向上を図り収益確保に努め、18年ぶりの黒字決算となったことは高く評価できる。引き続き、経営改善に取り組みられたい。

○ 医師確保対策に引き続き粘り強く取り組まれるとともに、高度医療病院とのより一層の連携強化を図る等、施策の推進を図り、病床利用率向上に努められたい。

**指定訪問看護事業会計**

○ 利率の高い企業債について、国の動向や社会情勢を常に注視し、できるだけ有利な借り換えや繰り上げ償還の実施に努め、経費削減を図られたい。

○ 善に大きく寄与しており評価できる。引き続き安定的な看護師確保に取り組みられたい。

○ 当事業は安定的な運営を図るため、平成24年度から病院事業となつていくが、今後更に必要性が高まること期待されるため、引き続き質の高いサービス提供に努められたい。

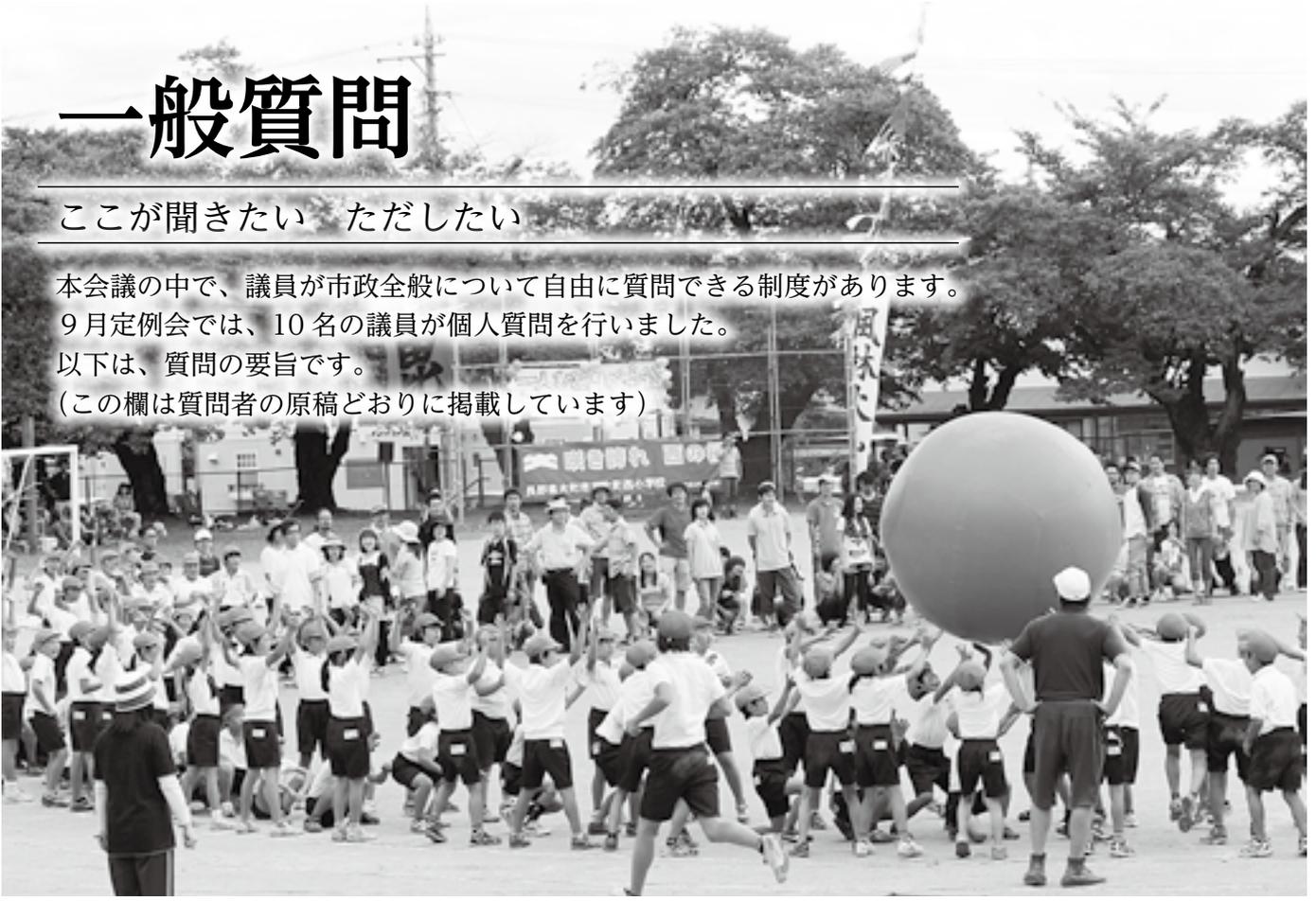
○ 介護施設等の増加により利用者が減少しているが、他施設とのさらなる連携等、利用率向上のための施策の推進に努力されたい。



# 一般質問

ここが聞きたい ただしい

本会議の中で、議員が市政全般について自由に質問できる制度があります。9月定例会では、10名の議員が個人質問を行いました。以下は、質問の要旨です。  
(この欄は質問者の原稿どおりに掲載しています)



**質問** 地域ブランドは大町市全体のイメージがどんなものなのか構築していくものである。地域それぞれ自体をブランドとするもので、大町市の統一景観につながるものだ。大町市は山と水の町である。そして古くからこの地を治めた仁科氏のまちづくりの思いが込められている。また、塩の道街道で栄えた人、物の交流の中心地でもあった。その再現こそが地域ブランドの構築である。そこから生まれる家並みの統一性、また、中心市街地のそれぞれの道を南北では爺ヶ岳通り、蓮華通りなど東西の道を鷹狩り通りなどに替え、山

をどのように考えているか。  
**答弁** 地域ブランドの定義は極めてあいまい。当市においては「大町市に対する市内外からの消費者からの評価」と考えている。地域ブランド力を高めるため、当市が持つ地域の魅力や豊富な観光資源と農作物と工業製品など、地域で生み出される商品とが、相互に好影響を与え合い、より好ましい市のイメージの形成を目指す。

**質問** 大町市では、第4次総合計画において、都市計画マスタープランや信大との連携等様々な計画や研究がなされている。しかし、その中で統一景観を含めた地域ブランドの構築がなされていない。市において地域ブランドをどのように考えているか。



**大町の地域ブランドは  
山と水、塩の道だ**  
二條 孝夫



北アルプスを信濃連山と呼ぼう

**答弁** 北アルプスは長野県だけでなく富山、岐阜両県にも位置し、全国的に通用している呼称であり、今後大事にしたい。「信濃連山」は夢のある提言だが、簡単に実現出来ないものと考え。今後も地域ブランド構築に取り組む。

**質問** 言葉が、大町の統一な地域ブランド、イメージを作る軸足を、ぶれさせていると思うがどうか。北アルプスという言葉から卒業し、そびえる山々を「信濃連山」と言うのはどうか。

と水を生かした街づくりが必要である。そしてここからはアルプスと言うイメージは生まれてこない。この北アルプスとい

他に、23年度決算における市長の評価について質問をした。



### 黒部観光の復活を！

高橋 正

**質問** 定住促進について、人口減少の一途をたどる大町市にとって、待ったなしの重要課題である。この課題にどう取り組むのか。

**答弁** 庁内に市長を本部長とする定住促進本部を設置し、企画財政課に定住促進係を設置した。また市民と行政との協働による「定住促進協働会議」を立ち上げた。市の総力を挙げて取り組む。議会の支援・協力を賜りたい。

**質問** 「松本糸魚川連絡道路」について、この重要性の割には盛り上がり欠けるがどうか。

**答弁** 県は「沿線地域の様々な地域課題に関する意見を踏まえて、今年度具体的な道路構造や安曇野地域の概略ルート案の修正・検討等の調査に入り、実現に向けてルートを絞り込んでいく」としている。年度内にはいくつかの素案が示されると思う。現在は調査などが主な事業であり、目には見えにくいを着実に前進している。早期実現に向けて力を尽くしていく。

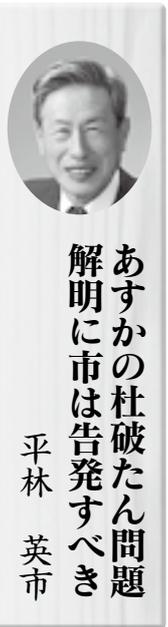
**質問** 観光について、立山黒部アルペンルートの観光客は、またもや百万人を割り込んでしまっているのではないか。入りこみ数について、どう分析し、どう捉えているのか。また、ダム完成から半世紀を経て、ダム観光のあり方が人々のニーズとかけ離れているのでは

ないか。百万人割れが続くと、認知度は著しく下がる。現在、若者は子供たちを連れて、値段の手ごろなディズニーランドへ出かける。田舎のおじさん・おばさんも、3千円で日本一の大展望ができる東京スカイツリーに憧れている。黒部ダムに関しては、料金が高すぎる。この辺で料金体系の見直しなども含め、黒部観光のあり方全体を見直すべきと思うがどうか。

**答弁** アンケート調査によると、50歳以上が約6割と、比較的高齢者が多い。若年層対策について、検討しているが、何らかの対策を講じなければならぬ。料金体系については、大きな課題と認識している。関係機関に働きかけていく。



料金体系が問題。黒部ダム



### あすかの杜破たん問題 解明に市は告発すべき

平林 英市

**質問** 明日香荘が再開されるのは喜ばしいことだ。しかし、あすかの杜の破たんは別問題だ。市は筆頭株主であり、副市長を取締役に送り込んでおり、指定管理者に選定したのも市である。庁内の事務調査委員会では原因解明が期待できない。なぜ外部の調査委員会を立ち上げなかったか。あすかの杜の銀行口座から社長名義の口座に675万円振り込まれている。さらに株主などによる市民の会の調査では約7、500万円もの使途不明金がある。明らかに背任行為と考える。市長名で検察に告発すべきだ。

**答弁** 第三者委員会を立ち上げて一民間法人の経営状況を調査する権限は、庁内の事務調査委員会と同様になり、告発については、現在の状況下では取締役が警察に相談し警察が捜査中とのことで、捜査上混乱を招く恐れも考えられ、捜査状況等の推移を見守っていく。

**質問** 調査委員会は今なぜ社長を呼ばなかったのか。社長や役員を呼んで事情聴取するのは常識ではないか。

**答弁** 警察がどこに注目して捜査しているか社長が知ることになり、事実解明のマイナスになるので呼ばない。

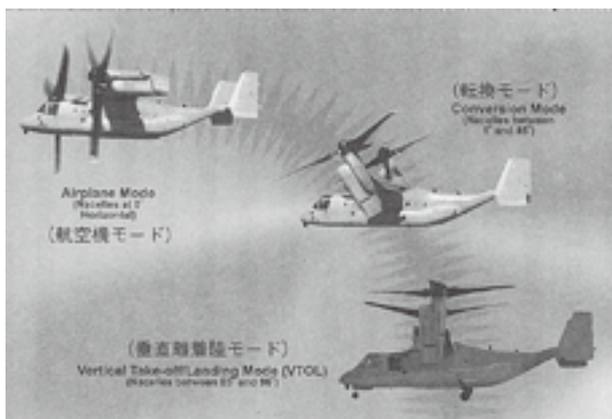
**質問** 市民の会によると、社長は平成22年の市の監査の時は通帳など全部

見てやったと言っている。3月議会での、私の質問に対する監査委員の答弁と食い違いがある。もし証拠書類を確認していた

とすれば、監査委員と市は経営状況を当時から把握していたことになる。そうした食い違いがあるから、なおさら告発して真相を解明すべきだ。

**答弁** 市の監査時は修正前の決算書で確認したので当時は分からなかった。道義的責任があると認識しているのか。どのような責任を取るのか。

**答弁** 道義的責任は免れないと思っている。責任の取り方は事実が解明された時点で明らかにしたい。ほかにオスプレイ、中綱南側の土砂採取事業、交通安全対策など質問した。



大町上空が訓練予定のオスプレイ



### 中綱の砂利採取事業の問題点について

大和 幸久

**質問** (株)マテリアル白馬(白馬村)は中綱自治会で説明会を開き、主要な旨は「前山」開発で、良質なコンクリート用岩石を得たい。この事業主体は、(株)マテリアル白馬、(株)金森建設、(株)大糸、(株)姫川プラントの4社だ。

計画では、前山の南へ張り出して三つの尾根(北からABC)から骨材用原石を削りだす。A尾根から始め、西側は送電線の下から東に、東側は国鉄の擁壁を残して西に向って100m掘り下げ、中央部を平地と原右搬出用道路とする。この開発で、中綱と西海の口を結ぶ道路ができるので、地域発展の一翼となる。と説明している。

#### 失う物が多すぎる開発

この計画は、この地域の美しい景観や豊かな自然環境を根こそぎ破壊するもので、一企業の砂利採取事業のメリットとは、比べ物にならない「負の遺産」を市民に残すことになり、とても容認できない。

前山一帯の美しい景観や豊かな自然環境は、大町市民はもとより、観光客や大北住民のかけがえのない共有財産だが、この開発は、広範囲に影響を及ぼすので、大町市は責任をもって対応

しなければならぬ。  
**答弁** 新聞報道で知った。A尾根を12年かけて100m掘り下げ、100万立方の原石を1日当

り100台運び出す計画と聞く。県には、大町市全体の意見を集約して回答する。

**質問** 汚染水流出の影響を受ける、カワシンジユカイなどの大町市文化財の調査、土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)の開発、保安林指定地域が含まれる開発計画は可能か。汚染水の流出で最も影響を受ける木崎湖周辺の住民・漁協などに説明がなされていない問題。

県にはA尾根開発のみの届けで、道路開発メリットが反故になっている問題などについて、大町市独自に「環境影響評価(環境アセスメント)」を実施したうえで慎重に検討すべきだ。

**答弁** 来週にも開く事務調査委員会で検討したい。



「前山」砂利採取計画



### 小学校での順法教育について

堀 堅一

**質問** 私は「いじめ」という言葉を失くしたほうが良いと思っている。この6年間で自殺した小中高生は576名にもなるのに、そのうちいじめを疑われた件数は13件だぞうだ。いじめという曖昧な言葉の中に、犯罪を包み込んで学校を正当化するようなことが絶対にあってはならない。殴ったり蹴ったりすれば立派な暴行罪であるし、「カツアゲ」などという言葉で表現してもこれは強盗罪にあたる。いじめの根絶を図るためにも教育の中に法(刑法)の指導を取り入れ、社会教育計画の中にも位置づけるべきではないか。

**答弁** 子供たちが「いじめ問題」を自らの問題として主体的にとらえ、積極的に問題解決に取り組む活動を通して、自他共に人を尊重し合える態度を養い、社会人としてたくましく成長していることをご理解いただきたい。

**質問** 将来の減少人口に見合っただけの公共建設物があればよいわけだが、10年から30年にわたって建物の総面積を減らすという目標が必要ではないか。

**答弁** 少子高齢化や人口減少社会など社会環境の変化とともに、公共施設の在り方も大きく変化していることから、現在のままで多くの公共施設を維持することは大きな負担となる。適切な施設配置や効率的な運営などについて

い。観光大町を標榜しながらやっているには大変にお粗末で「協働のまちづくり」が泣いている。

**答弁** 情報発信についてはその重要性を認識しているが、今回の情報発信の遅れは深く反省をしている。情報発信意識の向上を図り迅速かつ的確な情報発信に努め、今後は総括的に情報の掲載状況を確認するように努める。

そのほか、明日香荘の指定管理者との契約について、八坂地区を今後どのように活性化していくのかについて市内ごみ焼却場の設置見込みについて現状と今後を聞いた。

て様々な観点から検討していく。  
**質問** 大町市のホームページのイベント情報は漏れが多く機能していない。



「人口という山」の下り方を考える



### すべての人に優しい まちづくりを 太田 昭司

**質問** 大町市ではちょうど10年前に、年齢、性別、国籍、身体能力の違いによらず全ての人が使いやすい公共施設を目指す「ユニバーサルデザイン計画」を策定した。第4次総合計画後期計画の中で見直しをうたっているが、今後の計画についてお聞きしたい。

**答弁** 早急に、これまでの取り組みの成果について点検評価を行い、必要に応じて計画見直しを行いたい。

**質問** 外国人観光客の増加を視野に入れ、標識・看板の英語表記を進めていく必要があると思うが、いかがか。

**答弁** 近年設置した看板については英語・ローマ字表記を行っているが、大部分は日本語表記のみである。現在順次書き換えや更新を図っている。また今後はQRコードの表示も行い、観光協会の外国語サイトに接続できるようにしていく。

**質問** 介護旅行を企画する会社が増えている。大町市も介護旅行の受け入れを積極的に行ってはどうか。またトラベルヘルパー（介護技術と旅行知識を併せ持つ）を養成してはどうか。

**答弁** 現在、市内の観光施設、宿泊施設での要介護者の旅行の受け入れにあたり苦情は特にない。今後は高齢者、要介護者の旅行の増加も予想されるため、先進地の事例を参考に検討したい。

**質問** 本年4月、京都府亀岡市で登校中の児童と保護者に軽自動車が出っ込み3人が死亡し、その後も続けて各地で同

じょうな死亡事故が発生した。その後、全国で通学路の緊急合同点検が行われ、大町市でも実施した。通学路の点検は継続的に行われるべきであると思うがどうか。

**答弁** 現在、学校において日常的に校内外の安全点検に努め、年に一度は教育事務所の主幹指導主事の指導を受けている。また5、6月には教職員、保護者、警察、交通安全協会、育成会、民生児童委員などによる「子供の安全を守る地域連絡協議会」を開催し、道路管理者、交安委、警察などに、危険箇所の改修などの要望を行っている。



子ども、障がい者に優しいまちを



### 交流人口400万人と 大町市CI 眞嶋 強志

**質問** 後期基本計画の将来指標・交流人口400万人は、主に当市を訪れる観光客数を指し、チームに例えるなら4番打者は立山黒部アルペンルートであり、前後を固める打者には仁科三湖、神社仏閣、国営公園など有力な打者が多く存在する。

**答弁** 観光誘客にはユーモア精神も大切である。ハート型の湖、青木湖に若者が集まり、恋が成就する婚活イベントに活用したらどうか。

**質問** 方言と観光を結びつけ、ローカル色漂う方言表記の看板や道案内。信濃大町ステッカーを作成し、出張時車両に張り付ける動く広告塔作戦を提言するが検討の考えは。

**答弁** 市民の有志がスポーツ、芸能文化など各種イベントを実施する事案が多く見受けられる。行政は積極的に関わることが必要と考えるが、

貢献行政から稼ぐ行政に変わる意識改革が必要で、観光振興は税収増や雇用増に繋がり市政発展に寄与すると思うが行政の考えを。

**答弁** 昨年内市観光地を訪れた方は、283万人。ハート型の青木湖を活かした企画立案を全国発信したい。観光パンフのキャッチコピーに方言を用いているが、さらに目を引く効果的な表現について検討をする。ステッカー作製は

当市キャラクターの宣伝も含めて活用方を考える。市民活動サポートセンターを通して各種活動や運営の相談、助成金等

の情報提供に努める。観光振興は、新たな時流と観光客の動向に即した選択と集中が重要である。

**質問** 大町市のCI（コーポレートアイデンティティ）について、「信濃大町市」の提言を3月にしたが、市民の関心は高く「安曇大町市・仁科大町市」等の市民提案もある。「表紙を変えて中身も変わる」、市名変更の庁内研究チームを発足させてはどうか。

**答弁** 市名変更は慎重に考えるが、提案の内容も含め市の名称や通称のあり方について幅広く検討する。



大町市観光の強力打線



**SPF豚の堆肥施設  
計画の見解と対応は**

松島 吉子

**質問** 全農長野とJA大北は、白馬SPF豚の堆肥施設を八坂の三原地籍に建設する計画で住民説明会を開いた。白馬・小谷では臭気が大きな公害問題となっている。三原周辺の住民は非常に不安に思っているが、市は計画をどの程度承知しているか。

**回答** 本年4月にJAから説明を受けた。白馬村内にある豚舎のし尿汚泥を堆肥化する施設を八坂の三原地籍に建設したいというのだが、現段階では施設の規模や設計が固まっておらず、具体的な処理方法や臭気などの環境対策について検討中とのこと。説明の際市から①全国的に優良な施設を探し出し環境対策を取り入れ万全を期すこと②白馬の施設で発生した汚泥をなぜ大町市で処理するのか、生産した堆肥をどう活用していくのか明確にすること③産廃処理施設に該当することが考えられるので県の判断を受けること、3点を要望した。先月、JAから臭気対策が万全な群馬県内の堆肥施設を参考に全農本部で設計しており、環境対策も万全にしていくとの説明があった。法律及び県の条例に基づく地元の合意形成が必要な施設ではないが、市としては地元の理解や公害の発生しない施設整備を要請していきたい。

**質問** 臭気問題があるから別の場所

にというのは移設先の住民はどうなるのか。現在地で抜本的な対策を講じるべき。生活環境を守るため、白馬・小谷村から実情を聞き、農協とも協議し、市として対策を講じる必要がある。

**回答** 市としても群馬の施設を見て、点検チェックし、農協と話を進めたい。

**質問** 万全な施設なら現在地でやり、あえて運搬の費用をかけて八坂まで運ぶ必要はないと思う。生活環境を守るよう要望しておく。

このほか、難聴者のための磁気ループの周知と活用、聴力検査、外来植物の駆除、子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の3ワクチンの定期接種、教育現場の実態、消費税増税による影響について質問した。



臭気が発生している白馬の堆肥舎



**ケーブルテレビ事業の  
経営見通しは**

八木 聡

**質問** 昨年の4月から大町市でケーブルテレビ事業がスタートし、今9月定例議会は、ケーブルテレビ事業の最初の決算にあたる。現在の加入率は何%で、県内の他の自治体が運営するケーブルテレビ事業と比べてどうか。今年度の加入見通しは。加入率の目標達成にむけて順調に推移しているのか。今後の経営見通しは。

**回答** 本年7月31日現在の加入状況は、視聴可能世帯数で3、203世帯。県内の自治体が運営しているケーブルテレビの加入率は、白馬村約50%、小谷村約99%、飯山市約61%、木曾広域約99%などである。当市の加入率は27・1%であり、加入率をさらに高めることが課題であると認識している。今年度の4月から8月までの新規加入は28件あり、総加入数の推移としては横ばい傾向にある。今後の経営見通しは、収支がほぼ同程度で推移するものと考えている。将来、機器・設備等の修繕などに費用を要する。

**質問** 事業着手前には、加入率を4割〜6割を目標にしていた。最低でも4割を確保するとの当初の約束を果たしていただきたい。小さな努力は積み重ねていくことが一番大切だが、大きな目で見れば、有線放送事業組合との合併も視野にいれるべきではないか。

**回答** 今年度、庁内の検討委員会を発足させ、運営形態を検討する。放射線測定器活用について

**質問** 消費者庁と国民生活センターとの共同の事業により、大町市にも10月末までに測定器が無償貸与されると聞いている。学校給食の食材については、誰が、どのような方法で測定するのか、また食品を測定して欲しい市民の要望には応えて行くのか、測定器の使用方法についての考えを伺う。

**回答** 設置場所は、市役所庁舎内、検査対象は、現在外部に委託している学校、保育園の給食食材他、市民から持ち込まれる営業目的以外の農産物と食品等とし、検査料については無料とする。



加入率向上に何ができるのか



### 一般廃棄物処理施設

和田 俊彦

**質問** 手挙げ方式という新しい手法による候補地の選定を行う中で、勇気を持って手を挙げられた全自治会の苦労に対して、何らかの敬意を表すべきと思うが市の考えは。

**答弁** 大町市のため、市民生活になくてはならない施設の建設のために、候補地を推薦いただいた自治会の皆様には、心からお礼を申し上げます。市内から複数の候補地が挙がるのが確実な見通しであり、また白馬村、小谷村の両村からも候補地が挙がってくるものと考えている。各市村から推薦された複数の候補地は、最終的に一箇所に絞り込まれ、多くの候補地は選から漏れることになる。市は「千天の慈雨」の言葉を忘れることなく、推薦をいただいた地域の皆様とは、地域課題を共有し、ともに考えながら、できる限り課題解決に努力したいと考えている。

**質問** 推薦地が公表された場合、周辺自治会から多様な意見が出る可能性がある。このような事態になった場合、市が中心となって調整に当たることが必要と思うが。

**答弁** ご指摘のような事態は、あらかじめ予測されることから、公表後、あるいは選定後に、周辺自治会に説明会等の必要があれば、実施を考えている。推薦自治会が困惑することがない

よう、市として最善の努力をしていく。  
**質問** 推薦地の情報公開は、個人情報等の取り扱いに特に注意していた

いただきたいが。  
**答弁** 情報公開につきましては、慎重な対応が必要と考えている。特に個人情報については留意していきたい。また、その他の情報については、推薦自治会の自治会長と相談のうえ、適切な情報公開ができるよう判断していきたい。



暮らしのパートナーに感謝

## 議員定数等

### 検討委員会を設置

議員活動実態調査スタート

一昨年の10月より施行された大町市議会基本条例の取り決めで、今までに市民の皆さんとの意見交換会を14回行ってきました。これは地方分権一括法（2000年4月施行）により、市政運営において、市議会の役割がますます重要になってきているからです。財政が厳しい折、多様化する市民ニーズを的確に把握するためには、まずは多数で構成する合議制の良さを生かして議員全員で、市民の意見を伺うことは何にも増して大切なことと考えます。

ことは不適切であると考え、議員7名に、市民公募2名を加えて議論することになりました。7月1日から17日まで募集をしたところ、3名の応募があり、その中から一本木基善さん（常盤）と大日方三郎さん（大町）の2名を決めさせていただきました。

議会と市民の皆さんとの意見交換の中で、「議員の数は適切なのか」との議員定数について問われる声が多数聞かれました。そこで、今年の3月に議長からの諮問を受けて、大町市議会議員定数等検討委員会を立ち上げました。各党派からの代表7名で構成する検討委員会、議員定数や必要に応じて報酬や政務調査費などを議論しているところです。

公募委員の2名を加え、総勢9名で、大町市議会の議員定数等を来年の12月答申を目指して議論していく所存です。まずは、議員定数や報酬を考えるにあたり、議論のベースとなる議員活動実態調査を全議員で9月よりスタートしました。議員の活動や役割をご理解いただき、議論を深めていきたいと考えています。引き続きご理解とご協力をお願いします。

議員定数は、住民自治の根本に関わる問題で、議員だけで決める



一本木委員



大日方委員

## 委員会審査報告

## 総務文教委員会

議案第43号「大町市信濃木崎夏期大学設置及び管理に関する条例制定について」は、木崎夏期大学の建物が大町市の行政財産でありながら自治法第244条に基づき「公の施設」とせずに、公用財産として位置づけ、木崎夏期大学使用条例を設置根拠としている不自然な現況を見直して、指定管理者制度を導入するための施設の設置条例を提案するものです。

現況を考慮し、夏期大学の講座を開設すること及び社会教育を行う場として位置づける行政財産（公の施設）として条例整備を行い、「信濃通俗大学」を指定管理者とした運用を図るものです。委員から「防災対策への対応」「生涯学習への活用方法」について質疑があり、行政側から「防災面の強化」及び「市民へ積極的にPRを図る」との答弁がありました。慎重審査の結果、全会一致で原案を可決しました。

議案第44号「大町市防災会議条例の一部を改正する条例制定について」議案第45号「大町市災害対策本部条例の一部を改正する条例制定について」は、いずれも国の災害対策基本法の一部が改正されたことに伴い、所要の改正を行うもので、全会一致で原案を可決しました。

議案第46号「平成24年度大町市一般

会計補正予算（第3号）」では「法人市民税の還付状況について」質疑があり、行政側から「企業収益の落ち込みで、予納した税額の還付が、現時点で前年比1,000万円近く増加しており補正するものだ」との説明がありました。全会一致で原案を可決しました。

## 社会厚生委員会

陳情第41号「ねむの木うたこえ喫茶への助成を求める陳情」では、「協働のまちづくり助成制度の活用をするべきだ」「喜多郎コンサートと同じ扱いがでない理由は何か」等の質疑の後、全会一致で不採択と決しました。

議案第46号「平成24年度大町市一般会計補正予算（第3号）」のうち福祉課所管事項では、委員から「介護者慰労金について、ますます高齢化が進み介護の増加が予想される。今後の制度のあり方はどうか」との質疑があり、行政側から「今年度から制度のあり方について検討を始めている。見直し内容については、介護者にとって必要な制度であるので当事者の方からも意見を聞きながら慎重に検討を重ねたい」との答弁がありました。生活環境課所管事項では、委員から「生ゴミ堆肥化施設整備PFI（民間活力導入）事業について、施設建設予定地の地域の皆さんとの合意形成は十分図られているか」との質疑に対し、行政側から「本事業については八坂地域づくり協議会と協議を行い、視察等を通じ整備につ

いてはご了解を頂いている。公害の発生のない良質な堆肥を製造し地域の皆さんにも還元していきたい」との答弁がありました。いずれも全会一致で原案を可決しました。

新日本婦人の会大町支部長からの陳情第45号「18歳まで入院、通院子ども医療費助成の拡大についての陳情」では、本議案について委員間の自由討議を行いました。「子供の医療費無料化は本年4月より中学3年まで拡大をしなければかりである。その効果について検証できていない状況である。子育ての充実が重要であるが、しっかりとデータがない現段階で安易に拡大すべきでない」との意見がありました。一方で「子育て支援は当市の重点施策で、県内外に先駆けて対象年齢を18歳まで拡大することは、当市のPR効果も期待でき、定住促進を推進する上でも必要である」との意見も出されました。慎重審査の結果、賛成少数で不採択と決しました。海の口自治会長からの陳情第40号「水洗トイレ設置についての陳情」は全会一致で採択しました。

## 産業建設委員会

議案第46号「平成24年度大町市一般会計補正予算（第3号）」のうち、産業観光部所管事項の審査では、委員から「これから作製する公式キャラクター「おおまびよん」のPRグッズ活用方法について質疑があり、行政側から、切手シート、ストラップ、ステッカー、ぬいぐる

みを作製する事としている。市のノベルティグッズとして使用する他、いずら特産館や立川市のアンテナショップでの販売を予定している。また、建設水道部所管事項の審査では、委員から、購入予定の給水車について質疑があり、行政側から、現在市の所有車は1台のみで、北アルプス広域連合の給水車を借用する事もある。今回購入する事で2台体制となり、緊急時にも迅速な対応が可能となる。慎重審査の結果、全会一致で原案を可決しました。

議案第49号「平成24年度大町市公共下水道特別会計補正予算（第1号）」議案第50号「平成24年度大町市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）」議案第51号「平成24年度大町市公営簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）」は、慎重審査の結果、全会一致で原案を可決しました。

道路・水路の整備等や通学路の安全確保等に関して、自治会長及び小学校のPTA会長から提出された陳情第35号、陳情第36号、陳情第38号及び陳情第44号については、慎重審査の結果、全会一致で採択し、市長へ送付すべきものと決定しました。

大北農協農政協議会会長から提出された陳情第37号「PPP交渉参加表明断固反対に関する要請」は、行政側から、記載された内容に時期が過ぎたものがあるものの、陳情の趣旨には理解できるとの説明がありました。慎重審査の結果、願意は妥当と認め、全会一致で採択する事に決定しました。

8月臨時会 提出案件の審議結果と各議員の賛否一覧

○…賛成 ●…反対

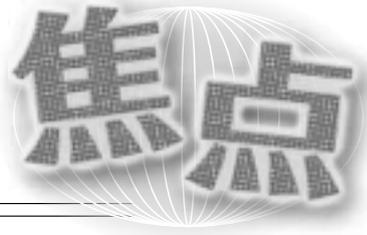
Table with columns for proposal number, case name, decision result, and 18 council members' votes.

9月定例会 提出案件の審議結果と各議員の賛否一覧

Large table with columns for proposal number, case name, decision result, and 18 council members' votes.

請願・陳情審査結果

- List of petitions and complaints with their respective status (採択/不採択) and detailed descriptions.



## 大町は「魅力の宝庫」

### 大町市の定住促進について考える



「湖は風景のなかで、  
もっとも美しく表情に富んだ地形的要素である。」

(ソロー『森の生活』より)

転出よりも転入が増えることにより「増」となります。これら二つの「増」は、お互いに深く関係しており、この度の「大町市定住促進ビジョン」(案)の中でも、この二つの「増」への取り組みが盛り込まれています。

実は大町には大きな可能性が秘められています。なんとと言っても、大町には日本一美しい山脈と、向こう岸が見える、程よい大きさの湖、この絶妙なコンビネーションがあります。また「E「教育」を当たり前のように受けてきた現代の若者たちの中には、「地方」田舎」の生活に価値を見いだす人もいます。そして、ネット時代の現代は職業も多様化・「ノマド化」(オフィスを持たない)しています。

そこで重要になるのが、大町市の魅力はどうやって外に向かって発信していくかということになります。最強の広告塔は、現在大町に住んでいる「ターナー、Uターンの人たちです。特に「ターンの方は、大町の魅力を実感として熟知しています。この方々こそが宝です!この方々の生活の実体験と感動をそのまま発信していく、またE「時代の「住み方」(中古住宅大改造(リノベーション)」の特集を組んでみるのはいかがでしょうか。

「ターンの皆さんと、これからの大町市について、そして夢を語り合ってみませんか。

大町が誇る美しい仁科三湖、そして雄大な北アルプス。大町の大自然は、ここに住む人たちを、また訪れる人たちを、ずっと魅了し続けてきました。旧大町市では最高40,000人を超える人が住んでいました。しかし現在は30,000人を割っています。大町市はこのほど、「大町市定住促進ビジョン」(案)を作成しました。人口を増やすためには、様々な観点からの取り組みが必要となります。まずは、大町市の人口推移はどうなっ

ていのか、見てみましょう。大町市の人口は、昭和35年の41,184人をピークに、その後減少が始まり、第二次ベビーブーム時(昭和46年から49年頃)に一時的に増加に転じるものの、その後は今日までずっと減少し続けています。人口の増減には、「自然増減」と「社会増減」の二つがありますが、自然増減は、亡くなる人の数よりも、生まれる子どもの数が多くなれば、「増」となります。また、社会増減については、

次の定例会は  
平成24年12月です。

あなたも市議会を  
傍聴してみませんか

大町市議会傍聴規則に基づき、議会事務局で傍聴人受付簿に住所・氏名を記入していただくことで、本会議・全員協議会・各常任委員会等をどなたでも傍聴いただけます。なお会議の様子は、写真撮影・録音ができないことや、いくつかのきまりがありますので、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。詳しい日程は大町市ホームページ、または議会事務局までお問い合わせください。

### 防災対策特別委員会が 議長に答申

昨年9月20日付で諮問された、災害時における大町市議会の組織体制について防災対策特別委員会は、9月19日に議長へ答申しました。

内容は、大町市議会災害対策支援本部行動指針(案)の策定と、市対策本部が設置された場合の議会の対応について議会の活動を規定するために、議会基本条例への位置づけを求めるものです。

今後市議会では、答申に基づき、災害時における市議会の対応について、全員協議会や議会議務委員会にて協議を進めていきます。



大町市議会  
事務局  
(0261)  
22-1139

市民の皆さんと大町市議会との

# 意見交換会を開催します

大町市議会では、議会活動や市政に関する情報をお知らせするとともに、市民の皆さんの要望や意見を直接お聞かせいただき、市政に反映するための貴重な機会として、意見交換会を開催します。今年度も下記のとおり6地区で開催します。市民の皆さんのご参加を心よりお待ちしております。



皆さんのご意見をお聞かせください

## 1 日時・場所・出席議員

開催日時	地区	場所	出席議員
11月9日 (金) 19:00 ~ 21:00	平地区	平公民館 (学習室)	大和幸久 松島吉子 堀 堅一 神社正幸 高橋 正 中牧盛登
	常盤地区	常盤公民館 (学習室)	竹村武人 眞嶋強志 平林英市 和田俊彦 小林治男 荒澤 靖
	社地区	社公民館 (大展示室)	大厩富義 勝野富男 太田昭司 二條孝夫 岡 秀子 八木 聡
11月13日 (火) 19:00 ~ 21:00 ※八坂地区のみ 18:30 ~ 20:30	大町地区	大町公民館分室 (学習室)	竹村武人 眞嶋強志 平林英市 和田俊彦 小林治男 荒澤 靖
	美麻地区	美麻公民館 (中会議室)	大厩富義 勝野富男 太田昭司 二條孝夫 岡 秀子 八木 聡
	八坂地区	八坂支所 (3階会議室)	大和幸久 松島吉子 堀 堅一 神社正幸 高橋 正 中牧盛登

## 2 議題案

### (1) 議会からの報告

- ・平成 23 年度決算について
- ・昨年いただいた、ご意見・ご要望の検討状況について
- ・議員定数等について

### (2) 市民の皆さんとの意見交換

- ・日ごろ議会について感じていることなどをお聞かせください。



## 編集後記

インターネットの中で、ある興味深いメールマガジンの配信を見ました。一八八九年、イギリスで生まれた歴史学者アーノルド・J・トインビーについて書かれていました。彼いわく「国家社会が衰退していくときに、共通して5つの現象が起きる。一つに幸せを金や物で計るようになる。二つに国民が希望や夢、自立心を失う。三つに国民の心に自分さえ良ければと言うエゴイズムが生まれる。四つに大人たちが若者の指導を怠るようになる。五つに指導者が大衆迎合を始める」というものです。配信者はまさに今の日本に当てはまるとして警鐘を鳴らしています。

3・11東日本大震災は、国のあり方や私たちの価値観を一瞬で変えてしまった、まさに時代を加速させたと思います。人口減少、経済の衰退、いじめ等の教育や領土をはじめとする外交、政治の問題、エネルギー政策等今まで少しずつ起きてきた問題が、震災後いっぺんに噴出して来ています。先に述べたトインビーの5つの現象が今の日本に当てはまるなら、解決方法を一歩誤れば大変なことになると思います。感情や風評に流され冷静さを失えば、問題解決は出来ません。私たちは今こそ問題解決のための一面だけの切り口ではなく、たくさんの切り口とバランス感覚を冷静に保持することが求められます。

(二條)